

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4150180042
法人名	医療法人 長晴会
事業所名	グループホーム きりん
所在地	佐賀県佐賀市金立町大字薬師丸1274番地1 (電話) 0952-71-8222

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年3月13日	評価確定日	平成21年4月27日

【情報提供票より】(平成21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年12月20日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	18 人	常勤	16 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 15.3 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート平屋建て
------	--------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり(1,380円)			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護1	4 名	要介護2	13 名		
要介護3	10 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	60 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	悠心堂クリニック(精神科) 秋山歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成12年の開設以来、地域に根ざし、あくまでも入居者本意の支援を通して、サービスの質の向上を常に目指しているグループホームである。機能訓練の重視や医療面の素早い対応等だけでなく、併設の老健施設を利用している地域の方と入居者の交流が盛んに行われている。遊びに出かけて一緒にレクを楽しんだり、川柳を詠んだりしている。運動会や夏祭り、デイケア参観は、入居者と地域の方、老健の利用者、また、その家族との交流の場ともなっている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善点ではなかったが、「運営推進会議を活かした取り組み」の更なる向上が期待されていた。開催回数を増やすことを含めて、会議参加者が、出席して互いに良かったと思えるような実のある会議内容になるように検討している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価を日常のサービスを振り返る良い機会と真摯に受け止めている。評価項目を各ユニットの会議で、改善点やサービスの成果等について検討している。その後、各ユニットの責任者による合同会議を開き、自己評価をまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営理念や状況を報告し、意見交換を行っている。その結果、認知症やグループホームの理解が地域に深まっている。ホームからの情報発信だけでなく、地域からの情報収集を含めて、地域との更なる結びつきを模索している。より有意義な会議になることを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は明るく笑顔で家族と接しており、家族も直接相談したり、要望を伝えている。内容によってその場で話し合ったり、介護計画に反映したりしている。「要望及び苦情等の相談」については、入居時に説明されており、苦情等があった場合は直ちに検討し、文書等で回答している。
重点項目④	日常生活における地域との関連(関連項目:外部3)
	散歩や併設の老人保健施設に出かけ、顔なじみになっている方もいる。案内があった敬老会に出席したり、高齢者趣味の作品展に出品もしている。野菜や漬物が近所から届いたり、一緒にお茶を飲むこともある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理事長が同じ地域の出身でもあり、グループホーム開設時から地域との関係を大事にしている。理念にも「地域とのふれ合い」があり、入居者と地域を繋ぎ、その人らしく暮らせる支援を理念の中心としている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は日々の打ち合わせや実践の中で、理念の確認を行っている。入居者への言葉かけや接する態度、毎日のケア記録にも理念を具体化している事が窺える。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、地域の清掃活動や祭り等の諸行事に職員も参加し、地域の方と一緒に活動している。野菜や漬物などのおすそ分けがあつたりもする。ホームの夏祭り、運動会には地域住民が多数みえる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を日々の実践の振り返り、更に質の高いサービスを目指す良い機会にしている。自己評価は、まず、各ユニットで全職員で話し合い、その後、管理者と各ユニットの責任者で検討している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の状況報告や家族や地域の意見を伺う場にもなっている。会議を通じて地域に認知症やグループホームに対する理解が深まっている。	○	更に会議の内容を充実して、互いに会議に参加して良かったと思えるような会議内容を模索している。会議開催の頻度と、更なる会議の充実を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政や包括支援センターと連携を保ち、困難事例等について相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には必ず声をかけて、日頃の暮らしぶりや健康状態等を報告している。ホーム便りでも毎月の様子を報告している。電話で随時報告することも多い。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。家族の不満等がホーム不信にならないように、小さな要望、意見等でも取り上げている。入居時にも家族と十分話し合いをもっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に行われている。そしてその異動が「新しい風」になる様にしている。異動にあたっては事前に入居者と接したり、引き継ぎを十分に行う様に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で採用年数に応じた職員研修計画があり、実践されている。ホーム独自の勉強会も開かれている。外部研修会への参加希望があれば、勤務体制を工夫して参加している。その報告会が、良い勉強の機会にもなっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会等の参加時に、他の事業所との意見交換等の機会を持っている。他ホームから見学はあるが、相互訪問等の交流までは行われていない。	○	事業者や地域全体のサービス水準の向上を図る為にも他法人との交流の充実を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学や遊びに来てもらっている。体験入所もある。職員が自宅訪問するなどして顔なじみに少しでもなる様にも努めている。家族とも事前に丹念に話し合っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を家族の一員として、又、人生の先輩として接している。入居者から教わる人生訓や生活の知恵に共感する事も多い。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の諸情報からだけでなく、日々の関わりの中で入居者の思いの把握に努めている。会話、つぶやき、何気ない所作、行動、その他から得られた情報を、日々の支援に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者が自分らしく暮らせるように本人や家族の意見を十分に聴いている。主治医を含めて担当者会議で計画案を作成し、その後、職員全員で検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月毎に評価を行い、計画が見直されている。状況が変化したり、家族からの要望等によっては、期間終了前であっても柔軟に見直されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算を活かして、24時間体制の健康管理が強化されている。一時帰宅や外泊、遠出の支援も行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望どおり、全員が入居前のかかりつけ医で受診している。歯科医の訪問診察も行われている。協力医療機関とは何時でも診察や相談が出来る体制にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針がきちんと整備されており、入居時の話し合いで家族等には納得してもらっている。実際の看取りの事例はないが、重度化の場合は幾度も主治医と話し合いが行われ、家族や本人の納得が得られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人としての尊厳を最大に尊重し、その方が持っている誇りを大事にしている。羞恥心への配慮も十分でさりげない言葉かけや察知で対応している。秘密の保持及び個人情報の保護と利用目的についても明示され厳守されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり、ゆったりと自分の暮らしの流れで過ごしている姿が見受けられる。大まかな一日の流れはあるものの、入居前の生活の流れに近い形をとっている。外出や買い物等の支援も希望に沿って行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事をしながら、和やかに会話を交わしたり、それとなく支援している。野菜の下ごしらえや、盛り付け、食器洗いなどそれぞれの役割もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、何時でも入浴できるが、現在は全員が午後の希望する時間帯にゆっくりと入浴している。入浴嫌いな方には、雰囲気を変えて入浴に導いたり、足浴で対応したりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味等を把握して役割や楽しみごとの支援をしている。習字、絵、生花、川柳、紙細工、野菜栽培、花の世話、外出、買い物等、色々な楽しみごとがある。新聞を購入して読んでいる方もある。各人の希望による役割もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や希望に配慮しながら、毎日の散歩が行われている。広い敷地にテントが張っており、暑い夏の日や、天候不順の日でもそこで過ごすこともできる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	閉塞感が生じない様、各ユニットにそれぞれある玄関には、夜間を除いて鍵はかけられていない。入居者の出入りは、職員の見配りや気配の察知で確認している。居室は何時でも出入りができる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接の法人と合同で、非常災害に備えて、避難、救出、その他の訓練を、毎月行っている。消防署の直接指導も年に2回受けている。地域への働きかけも考えられているが、まだ、実現には至っていない。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士作成の献立による食事である。高齢者向きの献立で、その方の状況に応じた食事支援も行われている。各人の食事量、水分摂取量もきちんと把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓から入る自然光で室内は明るい。居室の採光はカーテンで調整している。入居者手作りのひな飾りなどにより季節感への配慮がなされている。畳のある場所も設けられ、のびのびと手足を伸ばしたり、趣味の絵を描いている入居者の姿も見受けられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室ともその方が穏やかに安心して過ごせるよう、使い慣れたものだけでなく、テレビや個人用の電話などが持ち込まれている。家族で、季節に応じた好みの衣類の入れ替えも行われている。		